

### (3)プリズム矯正法 - 逆プリズム法:inversed prism

参考)プリズムと斜視 P85 視能矯正学 P378 視能学 P445 斜視弱視アトラス P196

この2冊の本のプリズムの置き方は反対だと思う。

**目的**

健眼は遮閉を行い、逆方向にプリズムを装用させ、中心窩での主視方向を認知させる

**適応**

偏心固視弱視眼の場合

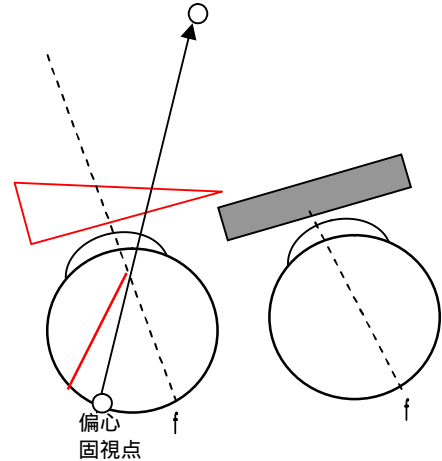
**準備物**プリズム眼鏡又はフレネル膜プリズム・アイパッチ又は遮閉膜

健眼遮閉(又は弱視眼の2段階下まで視力を落とす遮閉膜で健眼不完全遮閉)を行い、偏心固視眼に中和方向と基底を逆にしたプリズムを偏心度に比例させて通常 6~20 位まで(「視能学」P445では1枚最大 6、常用的には片眼 5 でそれ以上は追加をフレネル膜で記載があり、必要な度数と同値のプリズムがない場合は、通常眼つぶしの効果をねらって多めに)を装用する

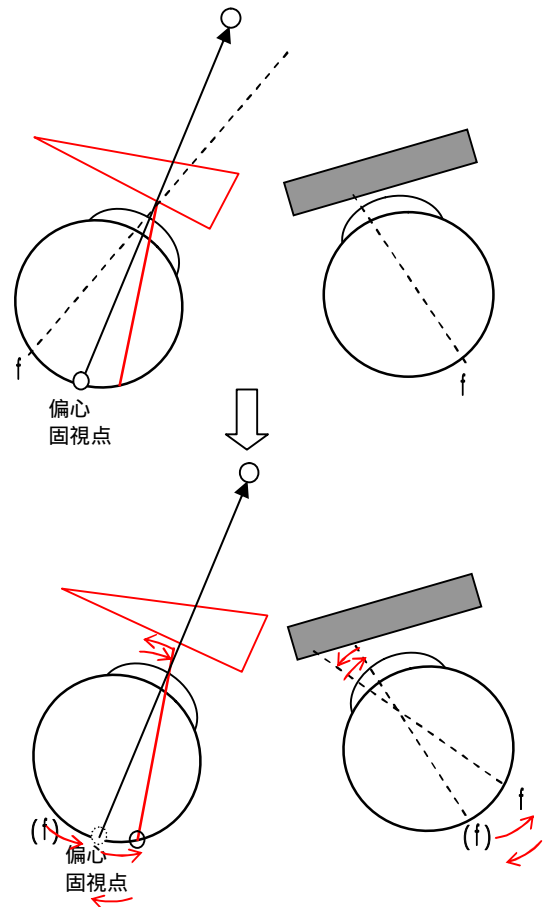


装用度数は偏心度に比例させてと書いているが詳細は記載されていない。視能学 P445 によれば、眼底カメラで測定して計算するらしい。「プリズムと斜視」では 10 以下の偏心固視が適応で ET5 B-in, XT5 B-out くらい装用と記載がある。

プリズムの置き方  
例)左眼 耳側偏心固視



例)左眼 鼻側偏心固視



例)

・主視方向?何かおかしい!  
・見ようとするものの位置がおかしい!

目標)

正常な外眼筋トーンに気づき、偏心固視点での主視方向が間違っていることを認知し、方向を断ち切って、新たな中心窩での主視方向を生む

例)左眼 鼻側偏心固視の場合

一時的に偏心固視点で見ようとして外転する。

健眼もまたHeringで内転する。

自然に内転し元の位置(偏心固視点の元あった眼球の位置)で再固視すると同時に健眼も元の位置に戻る(ただしこの場合視標を見ている位置ではないのでおかしいと感じる。ただし詳細の記載がない。)

Rubin によれば、偏心固視眼を十分に外方に動かすので中心固視が可能になるような外眼筋のトーンを増加させることになり偏心固視の治療になるのでは?とのこと。  
「プリズムと斜視」P85 より